

IV. 創立 130 周年記念事業の展開と組織基盤の強化

(1) 創立 130 周年記念事業の実施

○創立 130 周年会員大会の開催

本会議所が明治 11 年(1878 年)に創設されて以来、本年度で 130 周年を迎えたのを機に 12 月、創立 130 周年会員大会を開催した(写真)。当日は、来賓及び会員関係者ら約 800 人の出席のもと、60 年以上継続加入の 424 会員と、50 年以上 60 年未満継続加入の 1,441 会員、合計 1,865 会員に感謝状を贈呈した。また、組織基盤強化貢献者にも感謝状を贈呈したほか、竹中平蔵氏による記念講演、懇親パーティーなども実施した。



○シンポジウム「これからの都市型ツーリズムを考える」の実施

10 月に、都市型ツーリズムをテーマにシンポジウムを開催した。パネル・ディスカッションでは、橋爪紳也・大阪府立大学特別教授がコーディネーターとなり、茶谷幸治・長崎さるく博'06 コーディネートプロデューサー、朝廣佳子・なら燈花会の会前会長ら 4 人のパネリストが、大阪に豊富に存在する観光資源を効果的に内外へ発信するための具体的戦略などについて意見交換を行った。併せて、平成 21 年に実施する大阪検定の模擬試験も実施した。

[成果・実績] 220 人が参加し、今後の大阪の観光振興の戦略について活発な議論が交わされた。

○江戸から明治へ～変革期の企業家たち 五代友厚、広瀬幸平、藤田伝三郎展の開催

大阪企業家ミュージアムで、江戸時代から明治時代への変革期に大阪で活躍した五代友厚、広瀬幸平、藤田伝三郎の 3 人の企業家の企画展を 8～9 月に開催。3 人の事績を展示するとともに、五代友厚関係文書をデジタル化し閲覧に提供した。また、9 月にの宮本又郎・関西学院大学教授を講師に迎え「近代大阪の誕生と大阪商工会議所を創った企業家たち」をテーマに講演会を開催した。

[成果・実績] 期間中来館者数は 699 人。講演会には 263 人が来場した。

○大阪の企業家名言集「企業家の鑑(かがみ)」の作成・配布

大阪の企業家 31 人の名言集を日めくり形式で作成し、創立 130 周年会員大会参加者に配布した。また、希望者 130 人に無料での進呈を企画したところ 1,000 人を超える応募を得るなど好評を博した。

○永年会員名簿の発行

50 年以上継続加入(1959 年 3 月 31 日以前に入会)の「永年会員名簿」を 12 月に発行し、創立 130 周年会員大会参加者に配布したほか、機関紙「大商ニュース」に同梱して全会員に配布した。

(2) 効果的な事業広報・PR 活動の実施

○事業・サービスの総合案内冊子「大商便利帖」の作成

多岐にわたる本会議所の事業・サービスを分かりやすく説明するため、「大商便利帖 2008～2009 年度版」を 4 万 5,000 部作成し、機関紙「大商ニュース」に同梱して全会員に配布した。また、会員訪問活動や新規入会の勧誘ツールとしても活用し、各種事業やサービスの PR を行った。

○機関紙「大商ニュース」の発行

本会議所の活動を広報するとともに、経営に役立つ情報を会員に提供するため、各種広報活動を精力的に実施した。機関紙「大商ニュース」を 22 回発行した。本年度は、「なにわなんでも大阪検定」の受験を促進する「大阪のご当地検定誕生」や、大阪の食の魅力を紹介する「食の都・大阪とカウンター料理文化」、独自性・地域性を発揮しつつ事業に取り組む支部の活動を紹介する「エリア・チェンバーから」などを連載し紙面を充実させた。

○E メールを活用した広報(大商メールステーション、大商メールマガジン)とホームページの充実

企業や個人の関心事項に応じて本会議所事業を効果的に案内するため、4 月に「大商メールステーション」を稼働させ、E メールによる案内配信サービスを始めたほか、「大商メールマガジン」を毎週発行した。ホームページでは読みやすさ・使いやすさを追求し、入会促進のため会員メリットを強調した。

[成果・実績] メールステーションの登録者数は 14,735 人。ホームページのトップページへの年間アクセス件数は 82 万 2,306 件。総ページビューは 731 万 494 件と前年度に比べ大幅に増加した。

＜大阪商工会議所ホームページ＞



URL = <http://www.osaka.cci.or.jp>

○会員情報管理システムの運用

「欲しい情報を」「欲しい会員に」「欲しい時に」をキーワードに、「会員情報管理システム」を運用し、会員意向調査で把握した会員の経営課題、関心分野、入会動機、本会議所事業への参加履歴、会員訪問による会員企業との接触履歴などのデータを蓄積した。会員の様々な情報を分析し、事業の開発・運営と効果的な事業PRに反映させた。

〔3〕会員訪問・増強運動を通じた3万会員の回復・維持

○会員訪問活動の実施

会員本位の視点に立った事業の企画・運営を行うため、事務局職員が会員訪問活動を展開した。本年度は、会員の事業参加率の向上を目標として、過去に事業参加のない会員を中心に訪問、訪問時には本会議所事業活動の説明・PRを行い、各種会合・セミナーへの参加やサービス事業の利用勧奨に努めるとともに、会員から寄せられた意見・要望を聴き、会員との関係強化、組織・運営の改革に反映させた。

[成果・実績]事務局職員の会員訪問件数は約5,000件。平成15年度から実施している会員訪問活動による訪問累計件数は、約3万3,000件に達した。

○会員増強運動の推進

本会議所の「力の源泉」である会員数を、3万件まで回復させるため、事務局による新規加入1,800件を目標に会員増強運動を展開した。具体的には、本会議所の事業・サービス活用を促進するため大商便利帖を配布するとともに、ホームページに利用者の声を掲載するなど、各種PRツールを通じて未加入の企業にも本会議所の活動内容を積極的に広報した。また、役員・議員会社や新入会員を中心に未加入の企業をご紹介

いただくキャンペーンを実施。ご紹介いただいた会員には、事業・サービス利用券と記念品を進呈するとともに、11月までに企業を紹介いただいた会員を「創立130周年会員大会」に招待し、3件以上会員をご紹介いただいた会員に感謝状を贈呈した。

[成果・実績]事務局による新規加入件数は1,751件。その内訳は法人会員1,006件、団体会員44件、個人会員475件、特別会員226件。加えて役員・議員会社はじめ106会員から274の新会員を紹介いただいた。

〔4〕女性会の創立50周年記念事業の実施

○女性会創立50周年記念事業の実施

創立50周年を迎えた女性会は9月、創立50周年記念事業として、式典・講演会・祝賀会を実施した。また、記念寄付事業として、本会議所に国際会議ホールの緞帳を寄贈したほか、創立50周年記念誌及び写真集を1,300部作成し、式典出席者と全国各地の429女性会に配布した。

[成果・実績]野村明雄会頭はじめ多数の来賓、全国各地の女性会会員など606人が出席した。

〔5〕議員選挙・改選の円滑な実施

○議員の改選

本年度は議員(定員150人)の改選期(任期3年)であったことから、5～7月に、各部会で2号議員(定数52人)を選任した。また、3号議員(定数22人)を7月の通常議員総会で選任した。さらに、10月に1号議員選挙を行い、会員・特定商工業者の投票によって76人を選んだ。今回は定数76人に対して78人が立候補し、投票総数は13万4,616票、投票率は56.0%であった。

○役員改選

新議員選任後、11月に開催した臨時議員総会で、任期満了に伴う役員改選を行い、野村明雄氏(大阪ガス(株)会長)を会頭に再任した。また、副会頭は、樋口武男氏(大和ハウス工業(株)会長兼CEO)、西村貞一氏(株)サクラクレパス社長)、佐藤茂雄氏(京阪電気鉄道(株)CEO・取締役会議長)、石橋三洋氏(日本生命保険(相)副会長)、加藤誠氏(伊藤忠商事(株)相談役)、町田勝彦氏(シャープ(株)会長兼CEO)の6氏を再任するとともに、新たに小嶋淳司氏(社)大阪外食産業協会相談役理事)を選任した。さらに、専務理事(1人)を再任するとともに、常議員(50人)、監事(3人)を選任した。